

中学生の

地域学習のきっかけに

弘部 誠

依頼を受け、一学期に安曇川中学一年生の生徒さんを対象に、地域学習のきっかけとして藤樹先生と継体天皇のお話をさせていただきました。

シリーズ⑥ 「伝え継ぐ藤樹先生」

はじめに、現在も定着している安曇川中学校の授業はじめと終わりの「静座・黙想・礼、お願いたします（ありがとうございます）」のあいさつは、藤樹先生の「・・・静かに座し、他人が居なくても、自分を慎み、自分を見つめ、誠実にすること・・・」の言葉をもとに始まって三十三年の伝統があり、県内小・中学校に広まったことを伝え、藤樹先生については次の項目について語りました。

■中江藤樹と熊沢蕃山との関係

○馬方又左衛門とひきやくの話を金額と馬方の歩いた距離で話す。届けた二百両は少なくとも

現在の二千万円に匹敵するこ
と。

- 馬方又左衛門の話を聞いた熊沢蕃山が藤樹先生を訪ねた時、藤樹先生は三十四歳、「翁問答」の草稿をまとめていたが、まだ自分の学問に自信がなかった。そして、「京都や大阪には、名だたる学者の塾も多いではないか」と断るが・・・熊沢蕃山が先生の教えを受けたのは、わずか八ヶ月余りだったが・・・。
- 熊沢蕃山は次のことを実践
 - ・藩の学問として藤樹学（良知の学）を取り入れ、岡山藩の政治のよりどころに。
 - ・藩営の手習所百二十三カ所、岡山藩校や閑谷学校の開校を藩主池田光政に進言。
 - ・藤樹先生の息子の弥三郎（後の常省先生）を京都で教える。
 - ・藤樹先生の三人の息子や有力な門人を池田光政に推挙。
 - ・藤樹書院を屋敷として修理を行い、三十年間守る。

■熊沢蕃山と池田光政との関係

○姫路城を築城した池田輝政の孫である池田光政は、岡山藩の三代目藩主。儒教による政治を求め、教育の振興、洪水による難民を借金をして救済、治水、新

田開発などに着手、岡山藩の基礎を築く。“天下の三賢侯”（水戸の徳川光圀、会津の保科正之）と呼ばれた。熊沢蕃山の政治的才能を評価し、側役（側近、指南役）として禄三百石（のちに三千石）現在だと一億五千万円ぐらい）を与える。

なお、光政は、藤樹先生を師として尊敬し、藤樹先生の三人の息子と有力な門人を岡山藩に招き、藩校や庶民の学校・閑谷学校を設置し、教育を振興。

■閑谷学校について

（開校一六七〇年）

○藤樹先生の教えを受けた熊沢蕃山は、閑谷学校（日本最古・世界最古ともされる公立の庶民のための学校）の出发点となつた手習所および閑谷学校の建設の計画を立てる。藤樹先生の息子・弥三郎（後の常省先生）は、閑谷学校開校時の学校奉行（学校の建築、藩の学校経営の総責任者）となる。

○その後、閑谷学校は一七〇一年大改築され、備前焼の瓦の今のような講堂もできた。その講堂は国宝、他の建物は国の重要文化財に。現在は岡山県青少年教育センター閑谷学校として県内



閑谷学校全景

外の青少年に利用されている。
（所在地 岡山県備前市閑谷）
○エピソード・昭和三十四年に瓦のふき替えをしたとき、古い瓦一万枚余りはどれも国宝級の「古備前」。一枚だけを国宝にし、それ以外は秘密の場所に埋められた。この場所は極秘事項

こうした内容を、私が撮った写真をプロジェクターで映したりしながら話をいたしました。